

# 当面の技術対策（畜産編）

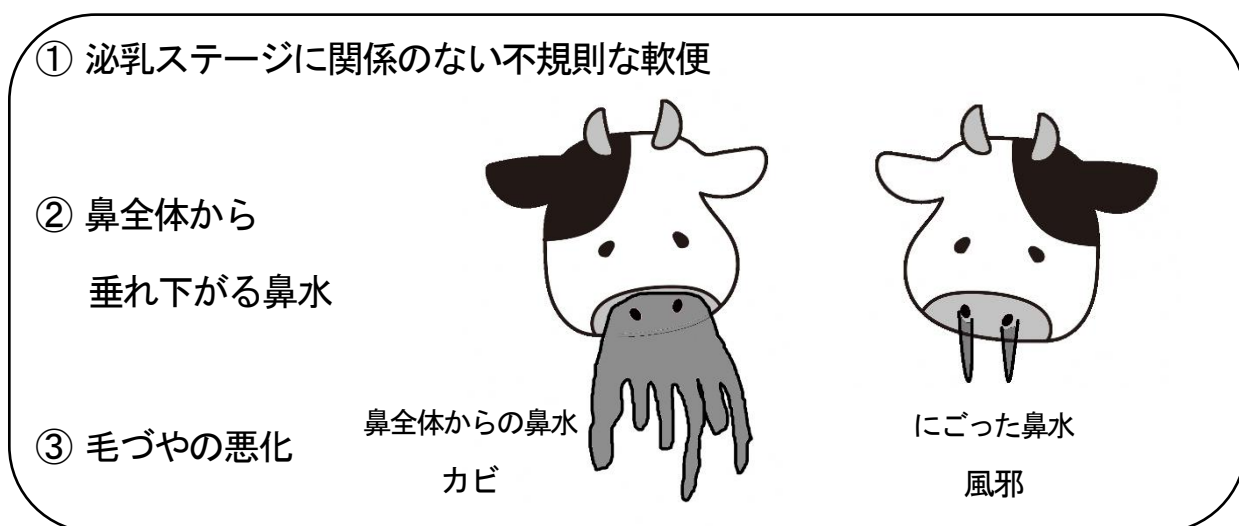
令和5年10月1日

発行：ゆとりみらい21農業推進協議会指導部会

## 1. サイレージ用とうもろこしのカビ毒汚染に注意！

本年のサイレージ用とうもろこしは、近年まれに見る夏場の高温と多湿条件により、多くのは場で子実の先端や、茎にカビが発生しています。そのため、サイレージ用とうもろこし由来のカビ毒の発生が懸念されます。カビ毒の摂取は、**免疫力の低下や繁殖障害などの発生リスク**があります。表1の初期症状が見られる場合は、サイロ内で目に見えるカビの徹底した除去、サイレージ用とうもろこし濃度を薄めた給与、場合によってはカビ毒吸着剤の使用が必要です。

表1 カビ毒摂取が原因の牛の初期症状



## 2. カビ毒吸着剤

カビ毒吸着剤は大きく分けて、粘土鉱物系、酵母細胞壁系、カビ毒分解酵素系の3種類があり、それらを配合した複合製剤も販売されています。使用後もなかなか効果を感じない場合は、規定の上限量を給与、それでも効果を感じない場合は主成分の異なるカビ毒吸着剤への変更をおすすめします。

カビの発生源はサイレージだけではなく、ミキサー内部に付着した飼料の洗浄は、厳寒期に凍結する前の今が良い機会です。

また赤黒い軟便は、出血性腸炎が疑われます。致死性が非常に高いため、すぐに獣医師へご相談下さい。ご不明な点がございましたら、お気軽に普及センターまたはJAまでご相談下さい。